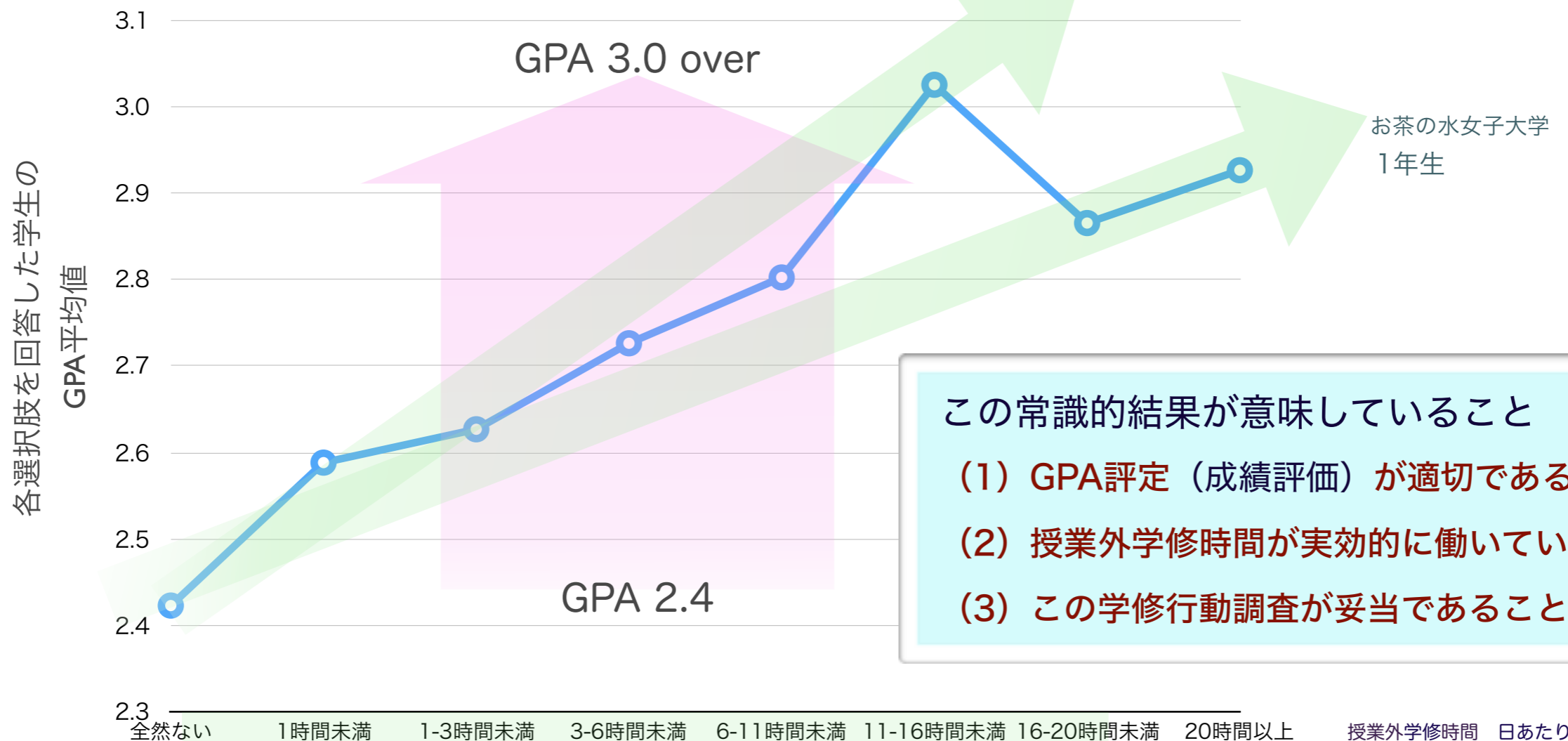


③ 授業外学修時間数が長い学生ほどGPAが高い

過去3年にわたり、学修行動調査で授業時間外における授業関連の学修時間が長いという学生ほど、GPAにみる学修成果がすぐれていることが見いだされてきました。この関係は2016年度のALCS調査でも引き続き確認され、両者の関連性が安定的であることが示されました。

授業外学修時間が長いほど学修成果が高まることをこの年度も確認



- この常識的結果が意味していること
- (1) GPA評定（成績評価）が適切であること
 - (2) 授業外学修時間が実効的に働いていること
 - (3) この学修行動調査が妥当であること

授業外学修時間が長いという学生ほど、正比例的により高い学修成果を得ている。とくに週11～16時間程度の区間には著効を認める。